



《共通事項》

◆基肥の施用について

1. 施肥時期 10月下旬
2. 施肥量

品目	グリーン長野果樹専用 有機入り72 (10a当)	果樹の力 (10a当)	備考	実際施用日 記入
プルーン・すもも	5袋	1袋		月 日
梅・杏	4袋	1袋	※1	月 日
なし	5袋	1袋		月 日
おうとう	5袋	2袋		月 日

※1 平坦地の杏・梅は、上記基準よりグリーン長野果樹専用有機入り72を1袋減肥する。
杏・梅の山間地で肥料流亡しやすい園は、果樹の力を1袋増肥する。

3. 留意事項

- 1) 基肥は年間施用量の70%程度として礼肥・追肥等分肥するのが基本です。
- 2) 樹勢・樹齢・品種・生育状況や土壌検査の結果から施用量は増減する。
- 3) 堆肥類・微量要素資材は必要量に応じて施用する。
- 4) 土壌pH（酸度）が高く中性に近づいている園が散見される。適正範囲内でないと欠乏・過剰症の発生、根の張り不足等問題となるため、pHが高い場合は石灰質資材（サンライム・醗酵けいふん等）の使用を見合わせる。また、明らかにpHが高い場合は、基肥施用に併せて、ガッテンペーパー10a当り5袋を樹冠下中心に施用する。可能な場合（根を傷つけない）は、軽く耕耘をし、土と混和する。

《なし》

◆なしコンテナ及びクッション材の回収について

出荷終了後、早期に必ず出荷コンテナ及びクッション材を返却ください。